

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドーナラボなは			
○保護者評価実施期間	2026年3月3日 ～ 2026年3月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2026年3月3日 ～ 2026年3月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの幅が広く、多様なニーズに応じた内容がバランスよく取り入れられている。 また、定期的な見直しや新たな工夫により固定化を防ぎ、常に新鮮さと柔軟性が保たれている。	活動プログラムをチームごとに区分し、それぞれの特性を活かした制作が行われている。	朝礼や職員間の共有の場で活動の振り返りを重ね、継続的なブラッシュアップを図っている。 そのうえで、児童の特性に即した、より運動性の高いプログラムづくりを検討している。
2	児童が自身の得意・不得意を主体的に発信し、意見を表明しながら活動に取り組めるよう支援している。	複数の選択肢から活動プログラムを選択できる仕組みを整え、ジャンルごとに色分けすることで視覚的にも分かりやすくしている。 活動の蓄積を通して自身の得意分野や取り組みの傾向に気づき、自己理解や自信の向上につながるよう工夫して実施している。	職員間の共有や保護者との面談を通じて、複数の関係機関が連動した支援体制の構築も視野に入れている。
3	送迎時の報告や日々の活動内容などを通じて、保護者との情報共有を綿密に行っている。	保護者には日々の様子や活動報告をアプリや写真で細かく共有しており、個別支援計画に基づく説明や相談体制も整っているため、児童の状況を把握しやすい環境となっている。また保護者面談も行い、共有の場を増やして連携強化も図っている	保護者同士の交流の場を定期的に設け、情報交換やネットワーク形成を支援するとともに、きょうだい支援も含めて家族全体への支援体制を強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とつながりを持った活動が十分とはいえず、取り組みが限定的である現状が見られる。今後は地域や学校との連携を一層深め、相互に協力し合える環境設定や具体的な仕組みづくりを検討していくことが求められる。	児童への配慮を優先していることから、学校や地域で実施されるイベント企画への参画は見送られている。	まずは保護者との面談や学校との連携を図り、基盤となる関係性の構築を進めていく。 そのうえで、地域内でのつながりや交流の機会を段階的に広げていくことを検討していく。
2	防災や安全体制に関する周知が十分に行き届いていない状況が見られる。 マニュアルの説明や緊急時の訓練に関しては評価が分かれており、一貫した理解や実施が課題となっている。	実施している取り組みであっても、保護者への周知や伝達が十分に行われていないケースが見受けられる。 マニュアル研修や訓練に関する実施日の設定が流動的になっている。	活動プログラムや防災対策、家族支援の内容を定期的に保護者に分かりやすく説明する機会を設ける。 SNSやメール配信、ホームページなど多様な媒体を活用し、日々の活動や安全対策の状況をこまめに発信する。
3	環境面において細かな安全配慮が十分とは言えず、例えば配線が足に引っかかりそうとの具体的な指摘が挙げられている。	PC利用が中心となっているため、コードや電源などの機材が多く、環境整備を行っても完全に目立たない形にまとめられていない。日々の活動を優先し、安全面の工夫が足りない状況になっている。	配線はケーブルカバーやモールで整理・固定し、通行経路にはコードを床に貼るなどの整備を行う。加えて、職員による日常的な点検や、児童への触れてはいけない箇所の周知など、安全確認と教育を徹底することで、事故リスクを低減し安心して活動できる環境を整えていく。